marketpress.jp

証券市場新聞

1　第199号

2019
10/7
月曜日

発行元　株式会社 証券市場新聞社
〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C
TEL 06-6105-1904　FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

日経平均株価
２万１４１０円２０銭
▲６８円４６銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１５７２．９０
▲４．０３（前日比）

ＩＰＯ「秋の陣」を分析

ＡＩや再生医療などテーマに乗る

秋のＩＰＯ（新規公開）シーズンが到来している。９月については、全般相場が大きな戻りを続けるなかで、物色は東証１部のバリュー株が中心でＩＰＯについては話題にならなかったが、権利配当落ちを通過して、高値警戒感からも一旦は物色の方向感が見えない状況になっている。そこで、出遅れの中小型材料株の活躍に期待をしたいが、その中で新鮮味があるＩＰＯは業態や成長性が評価されれば、セカンダリーでも十分に狙える場面がありそうだ。

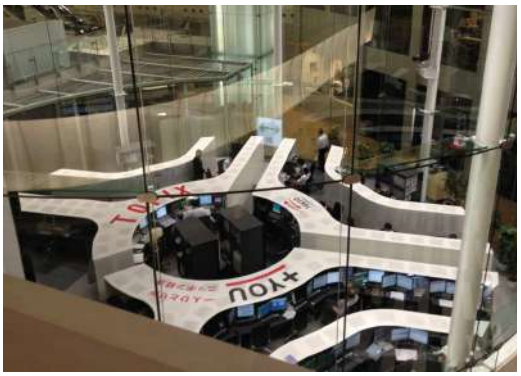
セカンダリー狙える場面

今秋のＩＰＯについては、９月２４日公開のＣｈａｔｔｗｏｒｋ（４４４８）が公開価格１６００円に対して初値は１４８０円、２６日公開のＨＰＣシステムズ（６５９７）が公開価格１９９０円に対して初値は１８７０円と両銘柄とも公開価格割れという波乱のスタートとなった。Ｃｈａｔｔｗｏｒｋはビジネスチャットツールでの知名度、ＨＰＣシステムズは科学・工学向け高性能システムでの技術など前評判は高かったが、公開株数の多さが重石になった。

公開価格割れの大型株では昨年公開のソフトバンク（９４３４）が９月に公開価格を奪回しており、両銘柄とも長期視野で見れば売り一巡後は狙い目になるかもしれない。

加えて、１０月は１日のパワーソリューションズ（４４５０）と２日のレオクラウン（７６８１）に続き、８日のＡＩＣＲＯＳＳ（４４７６）とＨＥＮＧＥ（４７４５）を皮切りに３０日の恵和（４２５１）まで１０社が公開を予定している。ＡＩＣＲＯＳＳはチャットデータをＡＩが解析して従業員の離職リスクを可視化、ＨＥＮＧＥも企業向けクラウドセキュリティサービスを展開し、人気がでそうだ。

その後は２４日公開でデータマネジメントプラットフォームのインティメート・マージャー（７０７２）、２８日公開で再生医療のセルソース（４８８０）が注目される。



８日移行、１０月末までに１０社が公開する

日経平均日足チャート

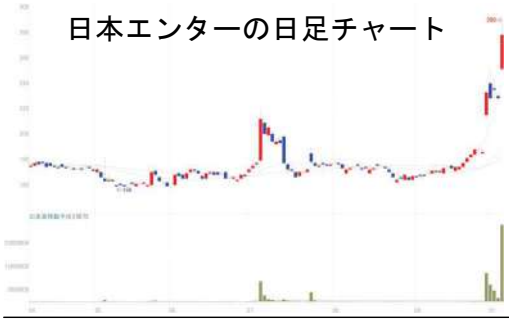
今週の動意銘柄

日エンタ値上りトップ

1Q営業利益2.5倍に急拡大

週明け30日、**日本エンタープライズ**（4829）が急伸、全市場値上がり率トップで、約3カ月ぶりに年初来高値を更新した。20年5月期第1四半期の連結決算で、営業利益8000万円（前年同期比2・5倍）と利益が急拡大したことを好感。キッティングRPAツールやスクラッチ開発が大きく伸び収益をけん引した。

日本エンターの日足チャート



パイプドHDは最高値

1日、**パイプドHD**（3919）が最高値更新。20年2月期の第2四半期累計の決算を発表。連結売上高29億8900万円（前年同期比14・0％増）、営業利益5億4500万円（同3・1倍）と大幅な増益となった。LINEと来店前注文システム、みずほ銀行と職域営業支援ソリューションなど、「スパイラル」を用いた業務効率化ソリューションを複数提供を開始している。

大塚HD治験改善なく

30日、**大塚ホールディングス**（4578）が続急落。大塚製薬の米子会社が開発している新規化合物「AVP-786」のアルツハイマー型認知症に伴う行動障害（アジテーション）を対象とした2本目のフェーズ3試験で、有意な改善がみられなかったと発表した。中等度から重度のアルツハイマー型認知症に伴うアジテーション症状を有する患者対象に12週間の多施設共同、ランダム化、プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験を行った。

アダストリア営業益14倍

1日、**アダストリア**（2685）が急伸。20年2月期の第2四半期累計決算は、連結売上高1089億8100万円（前年同期比3・8％増）、営業利益71億6400万円（同13・5倍）と大幅な増益となった。前期苦戦した基幹ブランドが回復、その他のブランドも総じて好調。

ストライク最高業績

1日、**ストライク**（6196）が一時ストップ高で新値追い。0年8月期単独業績は、売上高62億7500万円（前期比23・6％増）、営業利益22億3700万円（同18・6％増）と最高業績を見込んだ。M&A成約率向上、オンラインサービスが収益化する。

コロプラ連続S高

30日、**コロプラ**（3668）が連続ストップ高、**スクウェア・エニックス・ホールディングス**（9684）とともに年初来高値を更新。共同開発のスマホ向けゲーム「ドラゴンクエストウォーク」が、ポケモンGOを超える大ヒット作へ期待が継続。

公開価格の2・6倍

PSOLの初値

2日、前日に東証マザーズに新規上場した**パワーソリューションズ**（4450）が公開価格2000円の2・6倍の5110円で初値をつけた。金融機関向け業務コンサルティング・システム開発・運用保守サービスと業務のアウトソーシング受託、法人向けRPAライセンスの販売・導入サポートなどを手掛ける。

正直じいさんの株で大判小判

中小型株とIPOを物色

4日の東京市場はこの数日の大幅下落からは一旦は落ち着く動きです。ただ、利下げ期待を背景に前日の米国株が反発しましたが、106円70銭台まで進んだ円高が重しになりました。米雇用統計が通過す標に絡む重したが、8上海市場のされる米中極めるまでう動きには景気敏感らい状況ですが、続いています。7）に打診買い、（9503）に打2日公開の**レオ**ストップ高です。出直りつつあるパワーソリューションズ（4450）を含めて直近IPOの動きを見て狙うのも良さそうです。

ることで一連の経済指要イベントは通過しま日から取引再開となるや10～11日に開催閣僚級協議の動向を見は、積極的に上値を追ならないと思います。セクターは手を出しづ中小型株の個別物色は**イーレックス**（9511）ショートで**関西電力**診売りを入れています。**クラウン**（7681）が

花咲　翁

アトラはストップ高

時価総額の猶予期間解除

2日、**アトラ**（6029）がストップ高。9月の月間平均時価総額と月末時価総額が20億円以上となり、東証1部から2部への指定替えを回避、時価総額に係る猶予期間が解除されたことで、見直し買いを集めた。9月高値から半値水準に売り込まれていたこともあり、リバウンド余地の大きさも意識された。

初値付けた後S高

レオクランの初値

2日、**レオクラン**（7681）が東証2部に新規上場、公開価格2700円を8・1%上回る2920円で初値を付け、その後ストップ高まで買われた。医療機関向け医療機器及び医療設備販売と医療用画像の遠隔診断、介護福祉施設向けに給食サービスを提供する。

イチネンはがん検査

3日、イチネンホールディングス（9619）が続騰。出資先の九州大発ベンチャー「HIROTSUバイオサイエンス」が尿1滴でがんの有無を8割以上の確率で判定できる安価な検査法を来年1月から実用化すると発表したことをきっかけに引き続き思惑人気を集めた。がん患者の尿に含まれる特有のにおいに近づく、体長約1ミリの線虫を使って検査するという。

LINEは買収記事

3日、**LINE**（3938）が急反発。週刊文春が**ソフトバンクグループ**（9984）の孫正義氏が同社の買収を狙っていると報じたことが買い手掛かりになったようだ。市場関係者の話として「同社の時価総額は約9300億円程度で、筆頭株主の韓国ネイバー社が約73%を保有しているため買いやすい」としており、TOBなどの思惑を呼んだ。

ファストリ9月減収

3日、**ファーストリテイリング**（9983）が大幅反落。2日の取引終了後、9月の月次売上高を発表、直営店+Eコマース販売で前年同月比4・3%減、既存店+Eコマース販売で同4・2%減と減収となった。月を通して気温が高く推移した影響が出ている。

霞ケ関利益と配当増額

週末4日、**霞ケ関キャピタル**（3498）がストップ高。19年8月期の業績予想について、連結営業利益で6億4000万円から6億9500万円（前の期比87・8%増）へ上方修正、期末一括配当を15円から20円へ引き上げた。インバウンドや国内グループ旅行などの観光需要に対応したアパートメントホテル開発が好調。

メガバンク総じて安い

4日、**三菱UFJフィナンシャル・グループ**（8306）をはじめメガバンクが総じて安い。米国では主要経済指標が市場予想を下回り、10月追加の利下げ観測が高まっており、10年債利回りが急低下、海外事業の利ザヤ縮小による収益悪化が警戒された。

レイがストップ高

4日、**レイ**（4317）がストップ高。20年2月期の業績予想について、連結営業利益で6億5500万円から9億5000万円（前期比6・0%増）へ上方修正した。1Q低調だった映像レンタルが回復している。

転ばぬ先のテクニカル

米中協議に注目

先週の東京株式市場は米国景気指標の悪化が相次ぎ続急落となりました。ただ、理由は兎も角29日の当欄で先週は調整の週と指摘しておいたように、予測通りに予測値近くまで下落したに過ぎません。ISMやADPなど米国の景気指標が市場予想を下回り、慎重姿勢の投資家が増加しているのではないかと思われますが、その悪化の根源は米中貿易問題な訳であり、それが進展して大筋合意に持ち込めれば、一転不安心理は期待に変わります。

その意味では今週末に予定されている米中閣僚級協議に注目です。日経平均は27日終値の2万1878円から先週は一時2万1276円まで下落しました。60日移動平均線が2万1245円に位置しており、値幅調整としては十分な位置まで落ちました。ここより年末高期待で強気で仕込む局面を迎えることになるでしょう。

日々勇太朗

今週の動意銘柄

相場展望

10月後半高になるか？

世界の株式市場は調整局面

国際テクニカルアナリスト
武蔵　宗久 氏

世界の株式市場は９月後半から調整局面に入った。株価の上昇相場の始まりと下降相場の始まりを適格にキャッチするテクニカル分析として利用する「新値三本足」は、短期相場の展望には最適である。

日経平均の新値三本足は、９月５日の２万１０８５円で陽転し、１１本の陽線を入れた後、９月２７日の２万１８７８円で陰転した。ＮＹダウは陽線７本入れた後、９月２４日の２万６８０７ドルで陰転した。また、ＤＡＸ（独）は陽線１３本入れた後、９月２５日の１万２２３４ポイントで陰転、ＳＭＩ（スイス）は陽線８本入れた後、９９１４ポイントで陰転、トロント（加）は陽線１３本入れた後、１万６６９４ポイントで陰転、上海総合（中国）は陽線１０本入れた後、２９７８ポイントで陰転した。いずれも９月後半の相場において新値三本足は陰転し下降相場が始まっている。

１０月相場を展望するにあたって日経平均の過去１０年における各年の安値と高値を比較し、１０月相場の傾向を読むことにした。２００９年は５日安値２６日高値であった。２０１０年は２９日高値６日が安値、２０１１年は５日安値２８日高値、２０１２年は１２日安値２５日高値、２０１３年は７日安値２２日高値、２０１４年は１７日安値３１日高値、２０１５年は１日安値３０日高値、２０１６年は３日安値２８日高値、２０１７年は２日安値２８日高値、２０１８年は２９日安値２日高値であった。

過去１０年間において１０月相場の日経平均は、総じて月末にかけて上昇傾向であった。さて今年の１０月相場は前半安、後半高になるか？

10月26日（土）第3回 株式セミナー in大阪

「日本株は長期トレンドで選べ」

MMT理論は株式市場を過去最高値更新に導く！

主催：証券市場新聞　申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで！

時間：１４時～１７時　参加料：無料　先着４０名　講演会後は懇親会を予定

ヘッジファンドの売買手口で先を読む

大化け特選3銘柄を教えます！

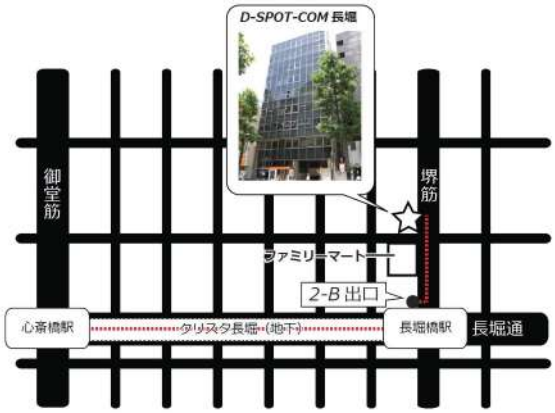
数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇

岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表）１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」約１万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。１カ月間の３銘柄合計パフォーマンス１５５％と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

会場：D-ＳＰＯＴ-ＣＯＭ長堀セミナールーム

大阪市中央区南船場2丁目3-6第一住建長堀橋駅前ビル1階
【TEL】06-6105-1904

堺筋線・長堀鶴見緑地線長堀橋駅　2-B 出口　徒歩１分
御堂筋線心斎橋駅　クリスタ長堀経由　徒歩５分



＊大変便利なポケットサイズのカレント経済ノート「主要経済指標」定価1,000円を先着40名様に差し上げます。

潮流

全く必要なかった消費増税

財政出動で景気浮上を図れ！

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

10月1日に消費税率が10%に引き上げられたが経済への影響は8%引き上げ時よりも小さいだろう。世界の政策が大きく緩和しているうえに、日本の経済対策も前回の反省から負担に対する対策費の規模が大きくなっているからだ。また、製造業の在庫循環もボトムアウトが意識されてきていることから、マーケットへの影響も限定的だろう。

ただ、今の日本の経済状態で消費増税をする必要性は全くない。未だに財政再建が必要だと唱えているメディアや財政学者、財務省は全く見当違いの現状分析をしている。そもそも財政再建が何のために必要であるのか分かっていない。結局、手段である財政再建を目的化してしまっている。財政再建を重視する理由としては、かつて円や債券暴落リスクが高まるなどという出鱈目な指摘をしていたが、日銀が大量の国債を購入しはじめると、緊縮財政論者のIMFですら中央銀行の買い入れ分は財政赤字としてカウントする必要はないと言っているのだ。

日本の純債務比率はアメリカやドイツよりも低いのに、財政危機を煽っている財務省とメディアに対して政治家はしっかりと対応すべきだ。

しかも、未だに国債の発行総額を借金総額などといっている。このような間違った報道が多くの国民を不安にし、日本経済を低迷させている原因がここにあるのだ。その間違った経済分析と報道を鵜呑みにしている政治家が多いことに愕然とする。

純債務比率は米、独より低い

経済が理解できない財政学者ほど要らないものはないが、財務省にとっては貴重なプロパガンダ要員なので必要なのだ。財務省は10月からの消費増税でその目的を果たした。消費増税は愚策以外の何ものでもないが、社会保障の財源といういい加減な解説を鵜呑みにした国民も多いだろう。財源など国債で確保すればいいのである。国債の発行が国民の借金になるといった間違った捉え方をしている多くの国民がいる。

自国通貨と国債は完全代替なので、貨幣発行権が政府にあるなら、政府が国債を刷って財源を確保すれば終わる話なのである。もちろん、高いインフレをもたらさない範囲での話である。国債を発行し、財政出動して景気を浮上させない限り日本の将来はない。

潮流銘柄は**クリエイト・レストランツ・ホール**（3387）、**ハウスドゥ**（3457）、**東京応化工業**（4186）。

大和ハウスグループの住宅総合窓口
Livness
［リブネス］

住まいの「買いたい」「売りたい」「リノベしたい」を
ワンストップ解決!

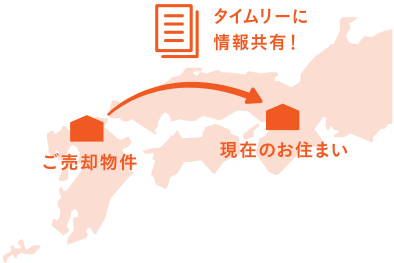
Case #01

「リブネス」の答え　奈良での依頼を福岡で対応！

「売りたい建物や土地は遠方にあるから、依頼先の選定が大変」。大和ハウスグループの「リブネス」は、そんなお悩みを解決できます。実際のケースとして、「福岡の実家を売りたい」という奈良にお住まいのお客さまをサポートしました。

このお客さまは、メンテナンスのために福岡に通うことの負担が大きく、売却を決意されたそうです。まず、豊富な取引実績を持つ「リブネス」の担当者が査定を行い、お客さまに納得いただける売却価格をご提示。市場のニーズを踏まえた販売活動にも力を入れた結果、査定から3ヶ月で成約に至りました。

離れた場所の建物や土地のお悩みもワンストップ解決で安心。それが大和ハウスグループの「リブネス」です。



大和ハウスグループのネットワークを活かし、
遠方の建物・土地のお悩みも
「ワンストップ解決！」

あなたのお住まいのお悩み、お気軽にご相談ください。

今すぐアクセス！
リブネス　検索

家、そして近未来をつくる。
Daiwa House®

大和ハウス工業株式会社〈住宅ストック〉
東京本社　リブネス事業推進部
東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号　〒102-8112
本社　リブネス事業推進部
大阪市北区梅田3丁目3番5号　〒530-8241
www.daiwahouse.co.jp

お問い合わせ
0120 413-109
営業時間
10:00～18:00
土日祝定休

ECO FIRST
エコ・ファースト企業
環境大臣認定
We Build ECO
Daiwa House Group

今週の活躍期待銘柄

アプリックス（3727）

スマモバの買収効果表面化

アプリックス（３７２７）の株価は８月１４日に３７６円まで急伸後、長らく調整していたが、２５０円割れ近辺では下値抵抗力を示している。出来高も再度増加傾向にあることから、ここからの出直りに期待したい。

ソフト基盤技術から撤退し、**光通信**（９４３５）傘下でＩｏＴに資源を集中し再建を進めている。ＩｏＴを基軸としたシステムインテグレーションやパッケージサービスは、法人向け（インダストリアルＩｏＴ）にシフトしサービスの拡充に注力している。

これに加えて、ＭＶＮＯ事業を展開するむスマートモバイルコミュニケーションズを子会社化し、クラウドＳＩＭを使用する新サービス「めっちゃＷｉＦｉ」を開始しており、５Ｇ時代を見据えた新たな取り組みにも意欲を見せている。（と）

調整一巡から出直りに期待

ピックルスコーポ（2925）

最高業績も大幅上振れ濃厚

ピックルスコーポレーション（２９２５）は大勢上昇トレンドのなかすかさず切り返し、一段高を志向してきた。

漬物業界のトップメーカーで、「ご飯がススム」シリーズを中心にしたキムチ製品に加え、「牛角やみつきになる！丸ごと塩オクラ」もヒット。野菜価格安定と佐賀新工場稼働率アップによる収益改善効果も大きく、業績は計画を超過して推移している。２０年２月期第２四半期は期初計画を大きく上回り、連結営業利益１３億９１００万円（前年同期比５２・３％増）で着地、通期予想を１５億８０００万円を１８億５３００万円１８億５３００万円（前期比３１・４％増）に上方修正したが、２Ｑの進捗率は７５％を超える。

連続最高業績更新もなお大幅な上振れが濃厚で、期末一括配当２８円は増配も期待できそうだ。（さ）

原料価格安定し稼働率向上

※チャートは日足

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

10月は月中値幅もっとも高い

窓埋めなければ下値模索も

先週の日経平均は米サプライトマネジメント協会（ＩＳＭ）が発表した９月の製造業景況感指数などが低水準となり、米景気減速懸念の広がりとともに、これをきっかけとしてニューヨーク市場と連動して大きく売られた。

１２月限先物はナイトセッション取引を入れると約１０００円下落し、９月の上昇分の約半分を３日間で失ったことになる。執筆時には米雇用統計の結果はわからないが既に大幅下落しているので結果が悪くても一旦は利下げ期待ということで下げ止まる可能性は高いと思われる。

１０月相場は実は１年で最も月中値幅が高い月であるとの結果がでている。平均で約１７６４円動いており、２番目は２月、最も動かない月が７月である。これは米国の投資信託の１０月決算に備えた換金売りを出すためと見られているが、昨年も１０月２日に２万２４２７円の高値を付けてからの３０００円下落は記憶に新しい。歴史的にも８７年のブラックマンデーなど、１０月に暴落が起こっているケースは多い。１０月は動く月だと改めて認識しておきたい。

チャート的には日経平均は２０００日移動平均線（２万１２０９円処）が下値抵抗ラインとして機能している。しかし、木曜日の大幅下落で２万１４７０円～２万１７２５円の大きな「窓」ができた。これは上昇過程でもできた「窓」を埋めずにできた窓で「アイランドリバーサル」という現象である。相場の反転を意味するチャート形状であり、早晩埋めきれないと再び下値模索となるケースが多い。

今週は１０月ＳＱ週であり需給的にも動かしやすい週である。今まで悪いニュースにも反応しなかったＡＩ自動取引がここ最近悪いニュースに過敏に反応してきているように思われるので、暫くは上下に大きく動きそうである。

上値は転換線の２万１６７０円、窓埋めの２万１７２５円、下値は上げ幅の半値水準の２万１２１５円処、割ってくると雲の上限の２万１０５０円処、上げの０・６１８％押しの２万９７０円処となろう。

（ハチロク）

日経225先物日足チャート

星野三太郎の株街往来

～体験して理解できる「ドラクエウォーク」の人気～

直近の上昇で強く印象に残っているのが「ドラゴンクエストウォーク」の配信で話題を集めたスクウェア・エニックス・ホールディングス（9684）と、その開発元であるコロプラ（3668）だ。特にコロプラについては8月13日の安値582円から9月25日の高値1330円までほぼ2倍超上昇したのだから、上昇過程で飛び乗った方も結構、利に乗ったと思う。

位置情報ゲームでは昨年話題になったポケモンGOは配信初日からプレイしてみたが、数週間程度で飽きてしまった。ポケモンより歴史が古いドラクエの方が、筆者のようなファミコン世代のには馴染めるのかなと思っていたが、実際にプレイしてみると現実の地図上に懐かしいモンスターが出現したりして、往年のドラクエファンでも楽しめる内容になっていた。

ただ、ポケモンGOの時にも問題になっていたように「歩きスマホ」は非常に危険。ネットの書き込みを見ていると立ち入り禁止の場所に進入してトラブルになったプレイヤーもいたようで、マナーを守ってプレイできるかが課題だろう。体験してみれば株価が上昇することも理解できたが、株の売買もゲームプレイも無理なくしたいものだ。

企業レター

健康セミナーを体験

日本トリム

公式ARアプリをリリース

日本トリム（6788）は整水器業界初となる健康セミナーを体験できるAR（拡張現実）アプリ「日本トリム（公式）」をリリースした。

健康セミナーは同社のインストラクターが企業向けに健康経営の一助として毎日水を飲むことの大切さを伝えるとともに、管理医療機器である電解水素水整水器について楽しく紹介するエンターテインメント性に定評のあるセミナー。日頃から「セミナーをもう一度見たい」「家族にも共有したい」という要望が多かったことから、現実の世界に存在しているように見える新しい方法で体験してもらうべくARアプリの開発となった。

アプリでは、セミナーの内容をテーマ毎に分類し、ダイジェスト版をAR動画で表現している。対応端末はiOS9以上搭載のiPhoneなどと、Android4・1以上。

ARアプリ「日本トリム（公式）」

大森屋

「朝ごはんで健康習慣キャンペーン」

コシヒカリをプレゼント

大森屋（2917）は11月29日まで「緑黄野菜ふりかけ」「小魚ふりかけ」「塩さばふりかけ」の3品を対象に、「朝ごはんで健康習慣キャンペーン」を実施している。

応募期間中に対象商品パッケージの応募マークを3枚1口（計3ポイント）として郵便はがきに貼付し、必要事項（①郵便番号・②住所・③氏名（フリガナ）・④年齢・⑤電話番号）を記入。ハガキ1枚につき1口とし、期間中は一人で何口でも応募できる。

抽選で新潟県産コシヒカリ（七分精米）（80人）などをプレゼントする。詳しくは、http://www.ohmori-ya.com/asagohan_campaign/を参照。

記者の視点

相場見通し

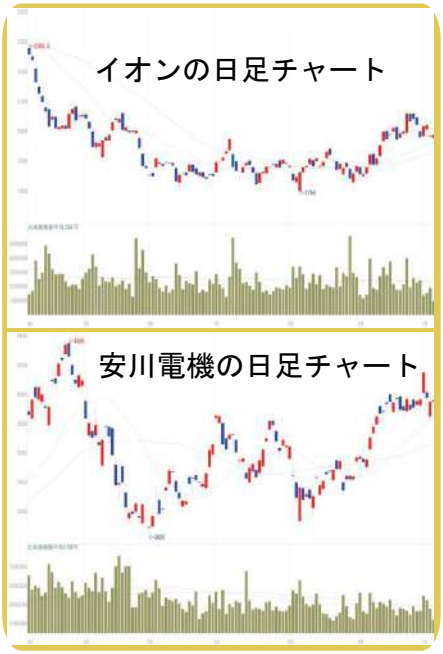
米中閣僚級会合が焦点

小売大物と安川2Q決算に注目

１０月第１週は９月ＩＳＭ製造業指数に続いてＡＤＰ雇用統計も予想を下回り、３日２３時に発表された９月のＩＳＭ非製造業指数も予想を下回ったことで、ニューヨーク市場では３日に２万５７００円台にまで突っ込む大幅調整になった。２２５先物のナイトセッションも同時進行では２万１０００円トビ台にまで急落しているが、その後は戻す動きとなっており、ＮＹ市場の下落スピードに比べて下値抵抗力があると判断できよう。

１０月第２週は１０～１１日に開催される米中閣僚級会合で、どのような結論が導き出されるか注目されよう。米シカゴ地区連銀のエバンズ総裁は必要なら追加利下げを実施する可能性を示唆しており、更なる利下げ期待が下支えの要因になるが、一連の経済指標悪化の根本的な要因は米中貿易摩擦によるものが大きい。経済指標悪化で危機感が高まれば、何らかの前向きな動きが期待されそうだ。１１日には２２５先物オプションのＳＱを控えており、先物主導で下げ幅を拡げたが、引き続き先物の動きには注視したい。

個別では２月期企業に第２四半期決算発表が続々と控える。増税後の動向を含めて第３四半期以降の各社の見通しが注視される。そして、１０日には**安川電機**（６５０６）が発表される。同社の内容は今後控える３月期企業の先行指標的な役割も担うだけにその内容を吟味したい。



日は**Ｊ．フロント リテイリング**（３０８６）と**吉野家ホールディングス**（９８６１）、９日は**イオン**（８２６７）や**ウエルシアホールディングス**（３１４１）など小売の大物が導き出されるか注目されよう。米シカゴ地区連銀のエバンズ総裁は必要なら追加利下げを実施する可能性

当面のスケジュール

- ４日　米9月雇用統計、米8月貿易収支(21:30)
- ７日　8月景気動向指数(14:00)
  ノーベル医学生理学賞発表
- ８日　8月家計調査、8月毎月勤労統計(8:30)
  8月国際収支(8:50)
  9月景気ウォッチャー調査
  ノーベル物理学賞発表
  米9月生産者物価(21:30)
- ９日　ノーベル物理学賞発表
  9月17・18日開催のFOMC議事録
- 10日　9月国内企業物価指数、8月機械受注(8:50)
  9月都心オフィス空室率(11:00)
  米中閣僚級貿易協議か(～11日)
  ノーベル文学賞発表
  米9月消費者物価(21:30)
- 11日　9月マネーストック(8:50)
  オプションSQ

編集後記

会見での関西電力幹部の証言は苦しい言い訳にしか聞こえなかった。受け取った多額の金品を自宅で保管していたとか、死人に口なしといったところで、返そうとすると高浜町元助役に恫喝されたとか…。特別背任の疑いもあるだけに、どうも歯切れが悪い。問題にかかわった幹部は全員退陣して、会社とは全く関係ない第三者に調査を委ね、すっきりするべきだろう。

さて、東京市場は大荒れだった。経済指標悪化による米株急落の影響を受けたが、週明け以降、すっきりリバウンドといけるだろうか。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。